vol.009 **MARCH,** 2019.[株式会社正文舎] **会社案内**

with sbs

※SBSは、正文舎（SyouBunSyaの略です）

What's New!

Web アクセシビリティ

正文舎のアレやコレ。

「株式会社 正文舎」A to Z

ISMS ～正文舎の情報セキュリティ。

TOPICS ―― メモ帳と糊

New&Goods ―― おやつ置き場

Focus on JAPANESE ―― 外来語のカタカナ表記

株式会社 正文舎のすべての情報は、WEBサイトでご確認ください。
バックナンバーもこちらから。

Photo : Adobe Stock

「株式会社 正文舎」A to Z

ISMS

Information
Security
Management
System

Text : Ebina Hiroaki

正文舎の情報セキュリティ。

ìnfərméiʃən［名詞］情報・資料／sikjúərəti［名詞］安心・保障

現代社会において、どんな企業でもセキュリティに配慮することは特別なことではなく、当然の義務となっています。私たち正文舎も、印刷やWebサイト・システム構築の仕事をするうえで「個人情報」を取り扱うため、日々セキュリティの確保に取り組んでいます。

今回は、正文舎で取得している、セキュリティマネジメントシステム「ISMS」という世界標準のISO規格についてご紹介いたします。

Illustration : Adobe Stock

■ISMSとは?

ISMSを一言で言うと、「情報を適切に保護してみんなに安心を与えるための仕組み」となるでしょうか。 本当に一言ならば「安心」と言いたいと思います。現代社会では様々なことの情報化が日を追うごとに進んでいます。

ニュース等で個人情報の流出事件が報じられるのを目にして、不安に思う事も多くなってきました。

このような状況の中で、「情報がどのように利用されるのか」が組織の業務でも重要なポイントとして注目されています。

組織が「情報」と呼ばれる資産に対して、どのようにセキュリティを確保して取り扱うのか、その姿勢がより一層問われているのです。

BSI社※のホームページには、

「ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）は、個別の問題に対する技術対策に加え、組織のマネジメントとして、自らのリスクアセスメントによって必要なセキュリティレベルを決定し、プランを持ち、資源を配分して、システムを運用することです。情報の機密性、完全性、可用性をバランス良く維持・改善し、リスクを適切に管理しているという信頼を利害関係者に与えることを主眼としています。」

と述べられています。

一体どのようなことを伝えたいのか、少しわかりにくいかもしれませんね。キーワードを解説していくことで、かみ砕いて説明していきたいと思います。

「個別の問題に対する技術対策」とは

例えば、ファイル共有サーバーへアクセスする際にパスワードを設定したり、メールの添付ファイルを暗号化ZIPファイルにしたりといった「セキュリティを確保する具体的な方法」のことを指しています。

「マネジメント」とは

企業のセキュリティに対する活動・取り組みが組織の経営にとって重要であることを認識して、正しく運営するべく管理していくことを意味しています。

「リスクアセスメント」とは

リスクをアセスメントすることですが、「リスク」は、日本工業規格リスクマネジメント用語（JIS Q 0073：2010）によると「目的に対する不確かさの影響」と定義されています。ある脅威が組織内にある何らかの脆弱性を利用して与える損害を指しています。

「アセスメント」により、組織が実施する業務の内容を精査し、日々の業務の中に潜んでいるリスクを洗い出し、そのリスクが業務や組織の経営に与える影響を検討します。

情報資産の価値とリスクの大きさに応じて対策を立案し、対策を実施する為の計画を作成して実行していきます。

「セキュリティレベル」とは

情報資産の価値を3つの点で決定し、その価値に応じた対策を定めるための指標にします。「機密性」は業務で扱う情報にアクセスできる人をどの程度まで制限するか、「完全性」は情報が正確であることをどこまで保証するか、「可用性」は情報へスムーズにアクセス出来るようにどの程度するか、を意味します。これらの3点から検討して、情報の価値やリスクの大きさ・必要性に応じてレベルの設定をして対策を決定します。

「プラン」とは

対策を実行するための計画を立案することです。

ISMSでは、このようにして立案された計画が、正しく運用されているかどうか、定めた対策が正しく実行されているかどうかを監査によって確認します。問題点が見つかれば更なる対策を検討して改善します。

この一連の活動をPDCAとして回していくことで、より改善された企業の活動を確立していくことを進めて行きます。

ISMSを正しく運営することで、組織は自身が抱えるリスクを最小化することができ、取引先は適切な情報の管理を期待できるというメリットがあります。

■「安心」という付加価値を提供したい

セキュリティの規格としては「Pマーク」の方が有名かもしれませんが、当社では、世界の標準規格であることと、規格の実効性を考えて、ISMSを選択しています。

このISMSを導入することで、現在の時代に即した「安心」という付加価値をお客様へ提供したいと考えています。

安心は目には見えませんが、これからも安心を提供し続けていけるよう活動していきたいと考えています。

なお、当社の情報セキュリティ基本方針と個人情報保護方針は本誌の10頁とWebサイト（表紙にQRコードがあります）にも掲載されています。

ぜひご覧ください。

※BSI社とは英国規格協会のことで英国の標準規格（英国規格）を定めている組織です。英国規格は国際標準規格（ISO）や各国の標準規格（日本のJIS等も含む）にも取り入れられている規格です。ISMSはBS7799としてBSIにより策定され、ISO/IEC 27001となりました。当社ではBSIのグループ会社であるBSIジャパンによりISMSの審査が実施されています。

TOPICS

正文舎をつなぐモノ。

メモ帳と糊

Text : Watanabe Mototsugu
Illustration : Hashimoto Takafumi

私は本誌を企画・編集している「クリエイティブ研究室」のほかに、「社内にある在庫紙を利用し、少しでも売上をアップできないか?」、「何か出来ることがないか?」と立ち上がった「紙商材プロジェクト」にも参加している。

そこのメンバーであるWEB部門部長の白藤から「メモ帳のサンプルを製作してみよう」との提案があり、印刷・製本課の二人の課長に相談をした。

印刷課長の万所から「表紙の上から1cmくらいにスジを入れて、中のページには上から1.5cmくらいの所にミシン目を入れて、無線綴じで作ってみよう」というアイデアがでた。 無線綴じ※1は製本課長が、ミシン目入れを印刷課長がそれぞれ担当し、15cm四方で厚さ5cm超という「デカくて分厚いメモ帳」ができ上がった。 それを発案者の白藤がSNSで発信すると、とあるお客様に「オリジナルサイズのメモ帳を作って売ってほしい」というご依頼をいただいた。 “不良在庫”であった紙が「ちょっとした工夫を加える」ことで、何と「商品」に生まれ変わったのである。私にとってそれは、初めての「クリエイティブ」な瞬間だった。

メモ帳は「紙を糊で束ねる」というシンプルな構造であるが故に、その「糊」が重要なファクターになる。 糊が固（強）すぎるとキレイに剥がれなかったり、剥がした紙が反り返ったり、逆に緩めすぎると使う前にバラバラになってしまったり・・・。

そこで、弊社で使用している糊についてどんな物があるのか、調べてみた。

弊社で使用している糊は3種類。 まずは、主に帳票類に使用されている3枚綴りや5枚綴り等の上・中・下に分かれているノーカーボン紙を1つにする糊で「セパレートボンド」と言う。 この糊は原液をそのままハケで塗って使用する。 これが不思議な糊で、「上と上」「中と中」「下と下」は着かずに、上と中と下は着いて一つになる。 解りやすく言うと、磁石のN極とS極は着き、N極とN極ははじかれるイメージである。

次に一般的に使用しているボンドで、紙工用接着剤水性エマルジョン系B1※2を使用し、ハケで塗っていき、スクラム冊子※3や上記のようなメモ帳を製本する場合に、この糊を使用する。 原液をそのまま使用することが難しいので、水で薄めて使い、この水の加減で糊の固さ（強さ）が決まってくる。 強固で剥がれにくい仕上がりにする場合は、二度塗りをしたりして調整する。

最後は、一定の厚みがある冊子を製本する無線綴じで使用する糊で、ニッタイトホットメルト接着剤。 温度が200℃という高温で使用し、盛りすぎると糊がはみ出て本の背に着いてきたりするので、熟練されたオペレータでなければ扱うのが難しい。

メモ帳を作ることは、印刷会社が母体の弊社にとっては造作もないことだけれど、通常ならば直接関わることがほぼないWEB部門と印刷製本課の二部門を、私が媒介、言わば「糊」となって「一緒にメモ帳を造れた」ことはとても良い出来事であった。そして、そのメモ帳の販促用のPOPをWEB部門の方々が造ってくれた。（本誌2月号 Vol.008 のTOPICS参照）

奇しくも弊社の本年度の全社行動目標は「製造から創造へ」である。 私としてはその一歩を踏み出せたのではないかと思っている。

※1：背を糊で接着し製本する綴じ方で、針金や糸を使用しないことから「無線」綴じと呼ばれています。糊が用紙に触れる表面積を増やすため、背に溝を入れる加工が施されるので、強度に問題は無く、耐久性があり本が長持ちします。

※2：古くは製本用接着剤として天然系接着剤がつかわれていましたが、ボンドB1が開発されて、合成接着剤がはじめて使われました。B1は天然系に比べて腐敗に対する卓越性ばかりではなく、乾燥した皮膜に耐水性、強靭性を有し製本の各分野で使用されています。

※3：広報誌・会報誌・新聞等で針で綴じられていない製本の方法です。新聞の折込などで、百貨店等のチラシはこの製本が多く採用されています。また針を使わないので安全で、紙以外使わないので環境に優しい製本方法です。

06

正文舎 New&Goods

おやつ置き場

Text : Shirafuji Saori

お客様、取引先の方、社員が、ときどきお土産にお菓子を持ってきてくださることがある。仕事の合間に、お菓子が回ってくるのは、気分転換になっていいものだ。でも、総務の社員は、どのようにお菓子を配分するのかに時間を使っていた。

社員全員に配ることができない場合は、どの部署と関係のある方なのかとか、余ったらどうするとか考え、案外時間がかかるのだ。お菓子を渡すときに、会話が生まれるので、社員同士のコミュニケーションになってプラスの面もあるのだが、自分の仕事が進まないということもあった。

Photo : Himukai Atsushi

ある日、総務の社員が「階段の踊り場に、小さなテーブルを入れて、そこにおやつを置くのはどうか」という提案をしてくれた。2階のバックヤードにある階段の踊り場は、1階の印刷工場、2階の営業・総務部門、3階の制作部門をつないでいる場所なので社員全員が通る。

そこにいただいたお菓子を置いて自由に持っていけるようにし、どんな背景でお菓子がここにあるのかメモを置いておくと、そこからお客様や取引先、社員のことがわかる、お菓子をちょっとつまめて気分転換になる、総務の社員も各フロアを回ってお菓子を配る必要もなくなり、一石二鳥ならぬ一石三鳥になる。

「あっ、おやつがある」

と気づいた社員が、そこで立ち止まり雑談もできたら社員同士のコミュニケーションの場にもなるかなと思った。

結果はどうかというと…

お菓子が置かれると、だいたい2日以内には全てなくなっているようなので、みんなが利用してくれていることがわかった。朝礼のあとで自席に戻るときにお菓子を持っていく姿を見かけたこともある。

テーブルに小さな花が飾ってあるこの場所が、ちょっと心が和む場所になるとよいなと思っている。

ただ、階段の踊り場はあくまでも通り道。社員が行ったり来たりしている場所。リラックスして仲間と立ち話をする気持ちにはなれないなと感じた。

次の正文舎の課題は、リラックスしながら雑談ができる休憩場所を確保することかなと思っている。

まめ
にほんごの知識 03

外来語のカナ表記

Text : Kurita Miyuki

私は昨年右肘を骨折してしまいました。自宅の階段を踏み外して背中で滑り落ちても、スキーで転倒してゲレンデをでんぐり返しで転げ落ちても、病院に行くほどのけがに至ったことはなかったので、何となく自分はけがとは無縁な人なのだと思っていたのですが。

私は肘の骨が粉々になったので手術になりましたが、一般的に骨折といえば、ギプスで固定して骨が繋がるのを待つ、という治療が多いかと思います。この「ギプス」はドイツ語で、綴りはGipsです。綴りで一目瞭然、「ギプス」が正しいのですが、「ギブス」と言う方、多くないですか。実は私も「ギブス」だと思っていたのです。

また、近頃当たり前のように日本の食卓に登場するようになったアボカド（avocado）。鮪やサーモンと合わせても、サンドイッチやサラダに入れてもおいしく、私も大好きなのですが、先日スーパーの野菜売場でアボガドと表記されているのを見かけました。この間違いは本当に多いですね。そしてそれをいちいち訂正されると、された側も「どっちでもいいじゃないか」と少々面倒に思うかもしれません。その気持ちはよくわかるのですが、本当にどっちでもいいのでしょうか。

外来語の記述でたびたび目にする間違いが、bedを「ベット」、bagを「バック」としているもの。これらは中学英語で、ほとんどの方が綴りも知っているはず。「ベット」だとbet（賭ける）、バックだとback（背中、後ろ）と間違える可能性もあります。特にbackは日本語でもよく使うので、紛らわしいですね。他にbadmintonを「バトミントン」と記述しているのもよく見かけます。

「アボカド」のように日本語としてまだ歴史が浅かったり、発音が微妙で表記が分かれる言葉ならともかく、日本語に定着して久しい外来語は、意識して正しく表記したほうが、混乱なく伝わるのではないかと思います。

Photo : Adobe Stock

校正の現場から。

先日、ATP500ロッテルダム大会の準決勝で、錦織選手が惜しくも敗れた相手、スイスのStan Wawrinka選手。彼の名前のカタカナ表記は、ワウリンカとバブリンカの両方があり、メディア間で統一されていません。本来はバブリンカが近い発音なのでしょうが、日本人には英語読みのワウリンカのほうもかなり広まっています。また、往年の名選手、スウェーデンのStefan Edbergさんも、本来のエドベリだけでなく、英語読みのエドバーグ表記をよく見かけます。ただ、当の本人たちは、自国以外でどう呼んでほしいかについて、Wawrinka選手は「ワウリンカ」、Edbergさんは「エドバーグ」といずれも英語読みをあげていたという話もありますから、一概に現地読みすればよいというものでもなさそうです。難しいですね。

What's New! Webアクセシビリティ

Text : Ebina Mikiko

評価・対応、研修、コンサルティングいたします。

日本では2016年4月に「障害者差別解消法」が施行され、障害者を不当に差別することが禁止されました。こうした動きの中で、行政機関のホームページは「Webアクセシビリティ（レベルAA）」に対応させることが義務づけられるようになりました（民間企業は努力義務）。つまり、障害者でも健常者と同じように情報を入手できるホームページを作ることが必要になりました。

■Webアクセシビリティとは

障害者だけでなく高齢者や一時的に身体に障害を負った方など、より多くの方がホームページから情報を得られるようにと考えられた規格です。（JIS X 8341-3）

例えば、目の見えない方も、読み上げソフトを使ってホームページから情報を入手することができるのですが、例えば色でしか判別できない情報が入っていると、色は読み上げられないので理解することができません。

例「はい」の方は青いボタンを、「いいえ」の方は赤いボタンを押してください。

Photo : Adobe Stock

この場合は、ボタンを色で区別するのではなく、ボタン名に「はい」「いいえ」と付ける必要がありますね。Webアクセシビリティの規格では、「色が、情報を伝える、動作を示す、反応を促す、又は視覚的な要素を判別するための唯一の視覚的手段になっていない。（レベルA）」という達成基準が記載されています。

このほかにも、様々な達成基準がWebアクセシビリティで設けられているのです。

正文舎では、Webアクセシビリティ準拠のホームページを作成することが可能です。また、評価のみ、研修のみといったコンサルティングも承ります。

■こんな方へ

- ☑自治体でホームページを運営しているが、アクセシビリティに対応を求められている。
- ☑自治体から業務委託されているが、ホームページ制作とアクセシビリティ対応を求められている。
- ☑学校・病院・介護施設など、ホームページで情報を広く発信する必要があるため、アクセシビリティにも配慮したい。
- ☑公的なイベントを開催するため、ホームページはアクセシビリティ対応したい。
- ☑ホームページの制作会社だが、アクセシビリティについて詳しくないので、業務委託したい。

★印刷物のカラーユニバーサル対応なども可能です。
ぜひお問い合わせください。

情報セキュリティ基本方針

1 基本姿勢及び目的

私たちは事業活動の展開において、情報資産は重要な経営資源であり、適切な情報セキュリティ対策を講じ、有効かつ効率的に活用いたします。お客様からの更なる信用の向上及び経営体質強化を図るために、情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）の構築及び運用、維持・管理を行います。

2 行動指針

⑴基本方針文書は、経営陣によって承認し、全従業員及び関係者に公表、通知する。
⑵当社の管理下にあるすべての業務活動に係わる情報資産を保護の対象とし、その「機密性」、「完全性」及び「可用性」の確保のためリスクアセスメントを実施し、適切な情報セキュリティ対策を施す。
⑶従業員及び関係者の意識に対し、情報セキュリティ教育・啓蒙活動を実施し、情報資産の適切な利用を行なうよう努める。
⑷情報資産の保護にあたり、情報セキュリティに関連する法令・規範を遵守する。
⑸情報セキュリティ体制の定期的な評価・見直しを実施することにより、新たなリスクの発生や環境変化に関する確認と対策を行い、継続的に情報セキュリティ管理体制を改善する。

2014年8月1日制定

個人情報保護方針

弊社は、お客様の個人情報について細心の注意をもって管理をしております。
弊社の個人情報保護に関する考え方とお客様にご留意いただきたい点につきまして、以下の取り組みを実施しております。

情報の収集

弊社のサービスにて、お客様の個人情報を収集させていただく場合、お客様に対する弊社の窓口において、個人情報の利用目的、利用範囲、お問合せ先を通知・了承をいただいた上で、目的に沿った限度内での個人情報を収集させていただきます。

個人情報の利用目的

弊社のサービスは、ご提供いただいた個人情報を以下のいずれかの目的の範囲内で取り扱いさせていただきます。

［ご本人確認のため］

○弊社サービスへのお申込み確認
○弊社サービスのお届けまたは提供
○ご購入代金やご利用料金の請求または受領案内送付
○ご利用サービスの提供条件の変更・停止・中止または契約解除の通知
○弊社サービスの改善または新たなサービスの開発
○弊社サービスの商品企画の参考
○ご請求資料・ノベルティ等の送付
○統計的に処理した個人情報（個人を特定不可能にしたもの）を調査結果として分析するため
○アンケート調査の実施

［個人情報の第三者提供］

弊社は、以下の場合を除き、お客様にご提供いただいた個人情報を第三者に開示・提供いたしません。
○お客様との同意がある場合
○法令等に基づき、提供に応じなければならない場合
○お客様の生命、身体または財産の保護のために緊急に必要がある場合
○統計的なデータとして、お客様個人を識別できない状態に加工した場合

［個人情報の管理］

弊社サービスは、ご提供いただいた個人情報を厳重に管理し、不正アクセス、紛失、破壊、改ざん及び漏洩などに関し予防措置を講ずるとともに、万一の発生時には速やかな是正措置を実施いたします。

［個人情報の照会・訂正・削除］

弊社サービスにご提供いただいた個人情報の内容に関して、照会・訂正・削除等を希望される場合は、お電話または電子メールにてお問い合わせください。ご請求いただいた方がお客様ご本人であることが確認でき次第、速やかに個人情報を開示、訂正または削除いたします。

クッキーについて

弊社サービスでは、最適な表示、ユーザー数のカウント、または再入力の省略のためなどにこの技術を使用しています。

その他

弊社サービスは、事前にご承諾いただきましたお客様に対して、サービス等に関する情報を、ご登録の宛先までメールまたは郵送でご案内させていただくことがあります。
本ページ記載事項は、弊社とお客様との間において効力を及ぼすものであり、第三者に適用されるものではありません。
弊社サービスの内容の変更に応じて、本ページの記載事項を改訂する場合があることをあらかじめご了承ください。

※以上の「お客様の個人情報」とはお客様の「氏名」、「住所」、「電話番号」、「FAX番号」、「電子メールアドレス」等の情報の単体や組み合わせにより、お客様個人を特定することができるものを示しております。

お客様情報の管理窓口
個人情報管理責任者：岸　昌洋
個人情報管理担当者：村田景伯（総務部）

お客様情報相談窓口
［E-mail］privacy@syoubunsya.co.jp

《会社概要》

社　　名	株式会社 正文舎
代表者	代表取締役　岸　昌洋
創　　業	昭和　9年 5月　1日
設　　立	昭和27年 5月15日
資本金	1,400万円
所在地	［本　　社］ 〒003-0802 北海道札幌市白石区菊水2条1丁目 4番27号 TEL.011-811-7151 FAX.011-813-2581 ［東京オフィス］ 〒107-0051 東京都港区元赤坂1-1-7 オリエント赤坂モートサイド805 TEL.03-5413-4016 FAX.03-5413-4017

取扱い品目

印刷事業

【商業印刷物】

［情　報　系］パンフレット・リーフレット・カタログ・チラシ、会社案内、ポスター、カレンダー、PR誌、取扱説明書（マニュアル）
［物流資材系］各種封筒、包装紙、シール・ラベル

【出版印刷】

［書　　籍］名鑑、各種名簿、記念誌、単行本
［雑　　誌］週刊誌、月刊誌、専門誌
［新　　聞］各種業界新聞、学校新聞
［学　参　系］教科書、辞典、問題集、生徒会誌
［自費出版］同人誌、自分誌、詩集、エッセイ、写真集

【業務用印刷】

伝票・帳票各種、オンデマンド／バリアブル、小ロット印刷、賞状（学位記・証書等）印刷、可変宛名印字、ダイレクトメール

情報メディア事業（WEBサクセス）
http://www.websuccess.jp/

各種WEBサイトの企画・制作・運営管理、各種データベースの企画・構築・運営管理、クロスメディア展開の企画・構築・運営管理

賞状net事業

賞状・表彰状等のネット通販サイトの運営

メディア・ユニバーサル・デザイン協会認定の
メディア・ユニバーサルデザイン・アドバイザーの
資格を持った制作者が多く在籍しています。

古紙パルプ配合率80%再生紙を使用

紙には古紙80%再生紙の
OKマットコートエコグリーンを使用しています。

GREEN PRINTING JFPI
F-B10129
本工場は、環境に配慮したGP認定工場です。

グリーンプリンティングの認定を受けています。

P-00023

全日本印刷工業組合連合会による
CSR認定制度の基準を達成しています。

IS 618840/ISO 27001

ISO/IEC 27001:2013 JIS Q 27001:2014
情報セキュリティマネジメントシステム
の認証取得をしています。

ぷらねっと
©syoubunsya.inc

★ぷらねっとクンは、正文舎の業務や取組を紹介するときに
どこからともなく現れるオリジナルキャラクターです。

製造から創造へ

株式会社 正文舎

札幌本社 〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目4-27
TEL.011-811-7151 ／ FAX.011-813-2581

東京OFFICE 〒107-0051 東京都港区元赤坂1-1-7 オリエント赤坂モートサイド805
TEL.03-5413-4016 ／ FAX.03-5413-4017

https://www.syoubunsya.co.jp

Publisher ■ Kishi Masahiro
Creative & Art Director ■ Narita Sadayuki
Chief Editor ■ Ebina Mikiko
Guest A to Z Writer ■ Ebina Hiroaki
TOPICS Writer ■ Watanabe Mototsugu
New & Goods Writer ■ Shirafuji Saori
Focus on JAPANESE Writer ■ Kurita Miyuki
Photographer ■ Himukai Atsushi
Editor ■ Honma Kazumi
Editor ■ Tokunaga Moe
Editor & Digital Printing ■ Watanabe Mototsugu

※本誌はデジタル印刷機 Ricoh Pro C7200sで、表紙にクリアトナーを使用し、オンデマンド印刷・製本をしています。